

開催日:令和2年1月9日(木)

場所:生野区役所5階 502・503会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
山本委員	特区民泊の認定取消の要件が「周辺住民からの苦情に適切かつ迅速に対応しないことなどから、施設の滞在者の平穏な滞在に支障が生じるに至った場合」となっている。では、周辺住民の苦情はどうなるのか？	周辺住民の方々の苦情をもって認定を取り消せないかという、ご意見は多く寄せられている。現在、住民の苦情にも対応した条例に改正できないかと検討しており、住民側と事業者側とのバランスのとれた制度になればと思う。
森口委員	民泊を申請するには周辺住民に事前説明を行う必要があるが、事前説明はほとんど行われていないのが実情となっている。	—
樋崎委員	特区民泊の規制に違反しても、「罰則規定はない」ことになっている。これでは規制することは難しいと思う。	「罰則規定がない」ところは、当然問題だと認識している。ただ、国のほうの法令上で罰則規定がないため、それを超える条例をつくることができない。国には罰則規定を設けるよう要望している。
山本委員	前回の全体会において、「地域まちづくり協議会の会計事務が複雑なため、大変苦慮している。素人でも簡単に処理できる会計ソフトを提供してほしい。」と要望したが、その後の進捗を教えてください。	まちづくりセンターに確認したところ、平野区でExcelを使用してプログラムを組んだソフトのようなものがあつたようであるが、今はそのプログラムを作成した者がいなくなり、使用できない状況と聞いている。また、所管局である市民局にも確認をしたうえで、改めてご報告をさせていただきます。
石崎委員	異東地域では、「防災」をキーワードにして町会の加入促進を図っている。この前は、首から吊り下げ式の「(避難する場所毎に色分けした)災害時避難用ナイロン札」を赤ちゃんからお年寄りまで無料で配布した。また、小学校の防災訓練では、子どもと一緒に来た保護者に対し、町会への加入を勧めたりしている。「防災」は若い方も関心があるので、多くの方が町会に加入してくれる。	—
宮崎委員	青少年指導員、青少年福祉委員、民生委員児童委員など地域で選任する様々な役員があるが、年齢制限などの条件があり、その確保が難しい状況となってきている。将来的には、報酬を出すなどして確保するようにしない限り、確保できなくなると思う。	—
山本委員	地域活動協議会(地域まちづくり協議会)で使用している会館や地域集会所などの建物を登記したいが、地域活動協議会は地縁団体になれないので登記ができない。なんとかならないか？	地域活動協議会は、個人、団体を問わず、その地域で活動されている方や住んでいる方全員が会員になれるため、地方自治法という地縁団体とは少し異なっている。 国の法律であるため大阪市独自の取扱いは難しいが、お申し出の要望は所管局である市民局に報告させていただいている。今後、状況が変われば報告させていただきます。
宮崎委員	域の防災訓練時に苦慮することは、自分の住所はわかるが、町会がわからない方が多い。今後、学校再編となると、ますますわからない方が多くなり、大変になると思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
宮崎委員	<p>「まちの未来」というと地下鉄ができれば良いなど規模の大きなことを考えるが、例えば、学校再編で使用しなくなったピアノを桃谷駅や鶴橋駅に置くなど身近なことをこの部会で提案し、何か地域活性化に繋がるものを具体化できれば良いと思う。</p>	—
伊藤(千)委員	<p>配付資料の中に、「IKUNOみんなの学校」というチラシが入っている。これは、元鶴橋中学校の跡地を使って、これまで2回開催している事業で、次の3回目は「生野区シティプロモーションオープン会議」ということで、様々な意見を出してほしいという会になると思う。これからの生野区を“おもしろくしていこう!”という話が出ると思うので、是非みんな参加できれば良いと思う。</p>	—

令和2年度生野区区政会議(第1回まちの未来部会)  
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和2年8月6日(木)

場所:生野区役所6階 大会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
宮崎委員	若い人が住んでくれないと生野区の未来はないと思う。生野区のものづくりは昔の話で、ものづくりで生野区を再生しようというのは現実離れしていると思う。	—
山本委員	昨年ものづくり百景の100社集まったということだが、今後の方針を聞きたい。ものづくり百景であっても、110社あっても120社あってもいいと思う。	若い方に対してキャリア教育のような視点を含めてアピールしていきたい。自分のまちがこんなにいるところなんだ、こんなところに興味を持たせたとか、そういったところに気づいていただけるように今後進めていきたいと考えている。 100社にこだわることなく、状況を見ながら情報収集しながらさらに追加してやっていけるところがあれば、考えていきたいと思う。
田中委員	ものづくりに関して言うと、事業者さんが若い人、特に二世帯とか三世帯の人が集まって情報交流をしているという話もある。そこから何か新しいビジネスが生まれる、ものづくりが生まれるということも考えられる。	—
山本委員	若い人は入ってきていると思うので、そこへ入ってきた人たちをどのようにして地域に取り込むか、まちづくり協議会に取り込むかを考える必要がある。	—
宮崎委員	生野区で子育てがしたい、生野区の学校へ行きたい、そんな世帯がもし増えたら生野区は再生すると思う。	—
樋崎委員	お年寄りのことも大事だが、若い方にとって魅力あるまちづくりを考えていただきたい。若い子が来る何か事業なり、そういう形のを基本に考えていくのがこれからのまちづくりじゃないかと思う。介護施設などお年寄りが行く施設ばかりなので、若い方が楽しく住まれて、子どもをたくさんつくれるということを考えていただきたい。	—
伊藤副部長	生野区はおもしろいまちだと思う。長屋など古い建物、路地とかもいいなと思うところがたくさんある。ものづくりも一時期よりは衰退してきているかもしれないが、若手の方が新しくコラボして、何か面白い格好いい商品が作れないか試行錯誤している。そういうところも魅力的だなと思う。お風呂も、格好いい銭湯がたくさんあるなと思う。 4月から大阪に来た女の子に生野区を案内した。その子は今都島区に住んでいるが、古い、自分で工事とかしながら住める建物があつたらいいなと言って空き家を見学していた。数としてはまだまだ少ないのかもしれないが、生野区に魅力を感じる若い人がいることは肌で感じている。そういう方々に魅力を届けるためにどうしていくのがいいか一緒に考えて取り組みしていけたらと思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
山本委員	地域に住んでいる人がいろんな知恵を出して、若い人たちを取り込んで、どうしていったらいいかを考えることによって若い世代の人が仲間となって地域を支えてくれると思う。こちらからモーションをかけて何とか工夫して、1人でも2人でも引っ張り込んだら地域が少しでも活性化すると思う。	—
宮崎委員	地域活動協議会の役員を引き受けてくれる人がおらず、高齢化している。高齢化のブレーキをかけるには、思い切って地域活動協議会のお金そのものを人件費に代えてしまっ若返りを図ることによっていろんなアイデアも出てくると思う。	—
山本委員	若い人の意見が入ってこないが、我々が若い人たちの意見を持ってここへ来ないといけない。若い人の意見も聴いて、ここでそのまま言ってもらったらいいかなと思う。	—
石崎委員	まち協はこれから補助が少なくなると思う。いろんな行事ができないのでそういうのを、例えば消毒液とかコロナ対策でちょっといただけたらと思う。	—
山本委員	100歳体操では多くの参加希望者がいた。皆さんよっぽど外へ出たかったと思う。これからは参加者を分散したり、少しでもお年寄りが外へ出られるように運営の仕方を工夫する必要がある。	—
山本委員	<p>今年は行事が取りやめになって、助成金を返さないといけないと思っているが、できたら大阪市が認める範囲内で何か備蓄品を買うとか、そういうことに対しても本当に認めてほしいと思う。</p> <p>まち協でもらった助成金を返す地域はあるのか。余ったら返戻する地域はあるのか。</p> <p>昔はできなかったが、今は予算流用できるのか。</p>	<p>幾つかの地域では金額の多寡はあるかもしれないが、あるというのは聞いている。</p> <p>今年度については、極力使いやすいような形で変えていっているところもあるので、密を避ける工夫をしていただいて、何らかの形でやっていただけたらと思う。ご高齢の方も含めて閉じ籠りなどにつながることはないように持っていくことができると思うので、こちらからはそのような形で活用していただけたらと思う。</p> <p>予算流用は変更申請をしていただくと、その範囲内でできることになると思う。</p>

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
樋崎委員	<p>生野区政3本柱があるが、どれをメインに行政をやっていくつもりなのか。3つともやるものなのか、ワン・ツー・スリーと決めているものなのか聞きたい。</p>	<p>空き家対策と子育て教育環境の整備は一体のもので、今こどもの数がどうしても減っている中で、再編を機に魅力のある学校をつくるとなると、当然学校の周りに住むので家がないと困る。生野区の人口がここまで減った最大の理由は、分譲マンションが建たないことに尽きる。ここ5年間で24区中唯一マンションが建っていない。その理由をもっとたどっていくと、結果的に大きな土地が空かない。大きな土地が空いたかなと思うと、介護施設になりがちである。戸建てを買って地域の人とつながりながら子育てをするところを空き家対策として戸建てを増やしながらかやっていくというのが1つの方向性。日本全体の少子化を考えると現状維持すら危ないので、微増を狙う。</p> <p>多文化共生に関して、生野区の人口は年々下がってはいるが、急に増えてきたアジア圏の留学生たちが下がり度合いを食い止めている。多世代、多文化のまちなので、この魅力をそのまま新しく来た外国人の人たちにも、このまちは暮ししやすいな、もともといる子育て世代も、このまちに住んでだけで外国の友達がいっぱい増えて、こどもたちがグローバルな考え方を持って育っていくまちっていいなというふうに思ってくれれば、相乗効果があると考えている。</p> <p>この3本は一体なので、例えば若い人を増やすのに、多文化共生を外してしまったら増えない。もう日本の人口は増えないし、そういう排他的なまちなではないと思う。できれば一緒にともに生きていく、いい影響を与えながら生きていくまちなにできれば、ものづくり産業も後継者がいないとか、支える若い職人がいないということも外国人の人たちが埋めていく部分もあるので、一体でやりたい。</p>
石崎委員	<p>自分が突然痴呆になったとき、役所に相談窓口があるのか。</p>	<p>社会福祉協議会の見守り相談室でまた個別に対応させていただきたい。</p>
伊藤副部長	<p>コロナの時代になってしまったが、少人数でちょっとまちを歩くとか、海外の方が入ってきているところを魅力的に見せていけることはできるのかなと思う。</p>	—
山本委員	<p>広報紙が1,2年前か忘れたが、がらっと変わった。自分たちで手作りでやっていると聞いてびっくりした。本当に読みやすく、見ただけで明るい感じがする。毎月楽しみにしている。</p>	—
山本委員	<p>広報紙が優しい色で読みやすくホットな気持ちになる。最初の表紙のイラストは本当にいろんな人たちがいるんだなという感じを、多様な文化があるというのが表現されていいなと思う。</p>	—